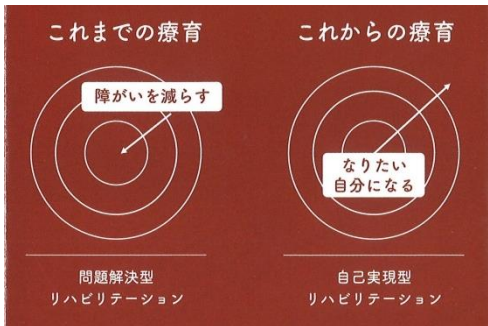


子育てネットワーク部会通信

NPO法人はびりす 山口代表による講演 「子どものGIFTを育む発達支援」 第1回の部会を開催



NPO法人はびりすとは？



作業療法士や理学療法士の方々が中心となり発足した、発達支援を中心に取り組んでいる組織です。一昨年から飛騨市内でも児童を中心に発達支援に取り組んでいます。また、昨年9月には古川町総合会館で「特別支援教育の未来」と題してシンポジウムを開催するなど、発達支援教育の取り組みを広く知ってもらう活動を行っています。

第一部の講話では、NPO法人はびりす代表の山口清明（やまぐち さやか）氏を講師にお迎えし、『子どものGIFTを育む発達支援』はびりすと飛騨市のコラボについてお話しいただきました。はじめに、飛騨市に拠点を置かれた経緯をお話しされ、次に実際の活動を動画で紹介してくださいました。飛騨市の強みは『人間関係の深さ』であること、その強みを活かして①予防（先回りのサービス）②多様性（官民教育医療福祉一体の対等チームでの活動）③人生のデザインを街全体で行っていきたくて語ってくださいました。特に印象的だったのが、活動現場での子どもたちと接する姿でした。作業療法士として大人と遊んでもらう作業を提供するのではなく、子どもが大人をお世話する作業を実践することで、子どもの興味・関心を最大限引き出し夢中にさせていきました。子どもたちの反応の良さが目に見えてわかり、生き生きとした表情が感じられる実践紹介でした。作業って何？の声には、いろいろな解釈があるが、『クウネルアソブシゴトスル』＝暮らすこととわかりやすく説明いただきました。続いて、コロナで生活が変わっていくことについては、

「『いつどうなるかわからない世界・時代でどんなふう生きていきたいか？』と会場に問われ、グループワークを交えそれぞれのライフデザインや大切にしたいことについて考えました。」

「『どんなふう生きていきたいか？』を深めていく手助けとして、3つのキーワードを示されました。1つ目はGIFT。それぞれの得意不得意、凸凹はその人の味わいであり、贈り物であるという捉え方です。具体例として「情緒障害」↓「繊細なスーパーエリート」↓「学習障害」↓「表裏なしの努力家で信頼の証」と挙げてくださいました。2つ目は、Story Making。「誰もが今まで生きてきた人生のストーリーがある。そのストーリーを踏ま

- 情緒障害 → 「繊細なスーパーエリート」
- 学習障害 → 「裏表なしの努力家で信頼の証」
- 軽度知的障害 → 「にくめないひょうきん家」
- アスペルガー症候群 → 「明るすぎるオタク研究者！」
- ダウン症 → 「芯が強い大和撫子」
- 自閉症スペクトラム → 「起死回生の眠れる貴公子」
- 協調性運動障害 → 「みんなをデトックスする浄化娘」
- 脳性麻痺 → 「目標思考的で折れないハート」

えて、これから先はどんな人生を生きたいのか、どんなストーリーの主人公になりたいのか」という視点で考えていく。3つ目が、Diversity（多様性）。個々のキャラクターの違いや発達の違いを認めていく視点の大切さを、身近なアニメを例にお話しくださいました。

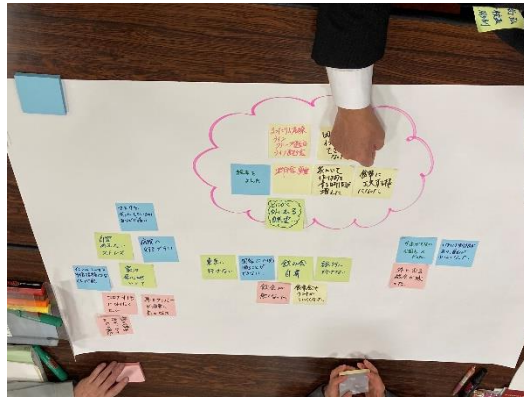
自分自身を振り返ること、簡単なようで難しいですが、『どんなふう生きていきたいか？』と前向きな問いに置き換えて考えていくことで、ずいぶん取り組みやすくなり、3つの視点を意識することで、いろんな角度からみつめることができたような気がしました。

今回の講話は、子育てネットワーク部会の年間テーマである『発達』についての学びを深める目的でしたが、子どもだけでなく私たち大人にも当てはまる奥深い内容でした。誰もが持っているGIFTを大切に、生かしていきましょう。そんな暮らしがこ飛騨市で実現出来たら素敵だなと感じました。まずは、自分のキャラクターを見つめなおし、どう生かせるか深めていきたいと思えます。もちろん、一人ではなく、飛騨市の強みである人間関係の深みを利用して！

池田 明美

コロナ禍での気付きとは

生活様式の変化に対応



第2部では、5つのグループに分かれて『コロナ禍での困りごと・工夫ごと』と題してグループワークを行いました。1年前とはまるっきり変

わってしまった環境の中で、思うように取り組めなかったことや新たに取り組んだことなど、様々な視点から意見を出し合いました。その後、出した意見を『前向きな意見』『後ろ向きな意見』といったグループに分けて皆で共有しまし

た。保育園や小学生の子を持つ親からは、乳幼児学級のあり方がコロナ禍に合わせて変わっていることや、子どもの力を伸ばせる取り組みを考えて実践してもらっているといった前向きな意見が出た一方で、マスクをすることで表情が見えず、それが子どもの発達に影響を及ぼすのではないかといったことや、過剰報道による子どもの心の不安を

煽るのではないかとといった意見も見られました。また、自粛期間が長かったことから、家族で触れ合う時間が増えたこと、新しいことを始めた、気付かなかったような変化に気づくようになった、心に余裕が生まれたなど、生活様式の変化が個々の生活にプラスになる影響を及ぼしていることも垣間見えま

した。コロナ禍であっても、子どもの成長は止めることができません。こんな時代だからこそ、子どもたちがやすく育っていく環境づくりや取り組みを大人が率先して行っていくことが大事になってくると思います。コロナに負けず日々前向きに取り組んでいくことで、家庭が、地域が、そして社会全体が明るくなり、失われた日常を取り戻せることを願っています。

三浦 順子

部会長より

気づけば、私が社会教育委員となつて4年目の年度が終わろうとしています。この1年は一体何だったのでしょうか。10年経って小さな子供たちは、何の中のようなこの1年を覚えて

いるでしょうか？ 私たち親は我慢ばかりさせていなかったらどうか、学びの場を奪ってはいなかったらどうか、考え出せばキリがありません。子育てネットワーク部会として、子供のために何ができるのか、模索するだけの1年になってしまったと思いません。もうすぐ新たな生活が動

き出します。以前とは違う生活です。不安でいっぱいになります。私たちはそんな中での「子供たちのため」「親たちのため」にできる事・求められる事とは何かを考え、活動していこうと思っ

溝口 純子

☆私たちの取り組み紹介☆

【喫茶いこいの家】LINE

(社福) 吉城福祉会 谷口博亮さん

私たち吉城福祉会の運営する「喫茶いこいの家」は喫茶店でありながら、店内で働く障がいのある方のための「就労支援事業所」であり、一般企業への就職を目指す方へのサポートや、一般企業への就職が困難な方へ働く機会を提供する、障がいのある方のための訓練の場、社会参加の場となっています。喫茶店にご来店いただく地域の方々の温かい見守りがあり、これまで2名の方がここでの活動を通して一般企業へ就職されました。現在は3名の方が喫茶いこいの家でご自身の目標に向かって頑張っておられます。

障がいの有無に関わらず、誰もが「共に生きる」ことのできる社会の実現を、私たちは目指しています。



お問い合わせ

☎&FAX : 0577-57-9969

営業時間 9:00~15:00(土・日・祝日休み)